

令和7年度 六小国分寺学実践記録

【六小の国分寺学】

○六小では、国分寺学の学習を、主に生活、総合の学習中に位置付けて推進しています。

○学童農園との連携を生かし、地域の特徴である農業、農産物に焦点をあてて、児童が地域の方々と関わりながら地域の良さや魅力、地域の人々の思いを知って、自分と地域の関わりについて考え、地域の一員として行動する児童の育成を目指しています。

【令和7年度の具体的な実践の記録】

〈3年生〉

「ちいきのみ力発見隊！」(連携:鈴木農場)



「地域のつながりづくり隊！」(連携:並木公民館、CS 委員)

- ① 移住者の増加や町内会の新会員の減少によって、地域のつながりが希薄になっていることを知る。
- ② インタビュー等の手法で集めた情報の一つ一つの事実のつながりやまとまりを整理する。
- ③ 地域の方々と関わりながら、自分たちが住む町や人の魅力を追求する。



〈4年生〉

「六小ファームプロジェクト(1)(2)」(連携:鈴木農場)

- ① 3年生の学習と関連させ、地域の農産物や農業の魅力に体験的に触れる。
- ② 農園学習を発展させ、農産物を育てている地域の農家の方々と関わり、農産物を育てる苦労や工夫等についても触れながら、地域の特産物の魅力をさらに実感する。
- ③ 年間を通して2種類の野菜を栽培する。2種目はクラスで育てたい野菜を選択して育てることで、自分事として農園学習を捉えることができるようにする。



〈5年生〉

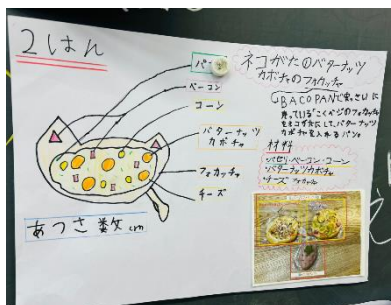
「赤米を育てよう」「食べよう！国分寺ごはん」(連携:中村農園、赤米プロジェクト)

- ①4年生までの学習を発展させ、5年生ではより地域の特色ある農産物に触れることで価値を感じる。
- ②赤米プロジェクトの方々との連携しながら実際に赤米を栽培することで、その希少性や原種を残そうとしている方々の活動、思いを知る。
- ③自分たちが栽培した赤米と、食育と連携して作った味噌を使い食事を作ることで、地域の農産物や自分たちで作った食材が単なる学習物ではなく、生活の中の食を担うことができるものだということに気づき、六年生でのこくベジの学習につなげる。



「こくベジプロジェクト」(連携:国分寺マルイ、bacopan 工房、BAKERY HINATA)

- ①連携先の人々とのかかわりを通して、自分たちの考えを広げたり、調整したりしてよりよい発信方法を考える。
- ②こくベジを使ったパンを考案し、国分寺マルイのパンフェスにて販売する。



〈6年生〉

「こくベジレシピ ~食 is Power~」(連携:鈴木農園、清水農園、榎戸農園、濱仲農園、JA 東京むさし、マルエツ戸倉店)

- ①これまで学習してきた学習のまとめとして、野菜を使った料理を調べてレシピを作成する。
- ②地域の直売所やお店の野菜売り場に立ち、農家の方やお店の方、野菜を買いに来た地域の方々にレシピを配る。
- ③農園学習のまとめとして、野菜を作っている人、販売している人、野菜を買いに来た人たちの思いや願いを知り、自分と地域との関わりに目を向け、これからの生活に生かすことができるようにする。

